

関東大震災 100 年関連広報

～関東大震災 100 年シンポジウム・特別企画展、ぼうさいこくたい 2023～

今年は、1923 年(大正 12 年)9 月 1 日に発生した関東大震災から 100 年の節目にあたり、本誌 7 月号(No. 273)でもご案内したとおり関東大震災 100 年をテーマとしたさまざまなイベント・催しが開催されています。

国総研では、「関東大震災 100 年シンポジウム(8 月 28 日(月)、東京ビッグサイト国際会議場)」、「関東大震災特別企画展(8 月 26 日(土)～28 日(月)、国営東京臨海広域防災公園・そなエリア東京)」(以上：国交省、関東地整主催)や「ぼうさいこくたい 2023(9 月 17 日(日)～18 日(月)、横浜国立大学)」(内閣府ほか主催)に参加し、国総研の地震防災関連の研究や取り組みの PR を行いました。

●地震防災関連研究のパネル展示

「関東大震災 100 年シンポジウム」では、国交省各機関および業界団体より関東大震災の被害や教訓、関東大震災以降から近年の地震防災技術などに関するパネル展示が行われました。国総研からは、地震対策に関する研究の背景・内容・成果をまとめたパネルを新たに作成し、PR を行いました。

本展示に向けたパネル作成では、「特に専門知識を有していない、中学生でも無理なく理解できる」ことをコンセプトとし、下水道、河川、土砂災害、道路構造物、建築、都市、港湾・沿岸海洋、空港の各研究部の主に若手職員が対応しました。

会場では、来場者がパネルを熱心に読み込む姿や写真に収める様子が見られ、国総研の取り組みに多くの方に関心を持っていただけたと思います。



パネル展示



展示したパネル(抜粋)

●クイズ！ 住宅・社会資本分野の耐震基準はどんな風が変わってきた？

「ぼうさいこくたい 2023」では、「関東大震災 100 年シンポジウム」に向けて作成した 12 枚のパネルを使い、全体を関東大震災以降の防災・減災へに向けた一つの大きなストーリーに見立て、住宅・社会資本分野の耐震基準などを楽しく学んでいただけるクイズ企画を実施しました。

前述の通り、今回作成したパネルは中学生が理解できる内容としていたため、パネル展示にあたりクイズのヒントをパネルの要点に貼り付け、注目を集める工夫などを施し、小学校高学年～大人までの広い年代の方がクイズに参加できるようにしました。

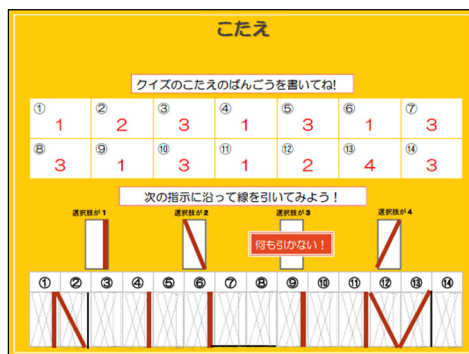
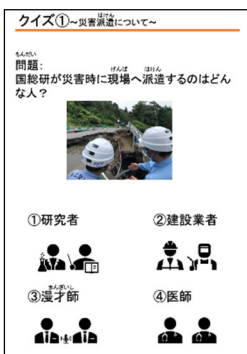
参加者からは「パネルの内容は難しかったけど、クイズを全部解きたかったので頑張ってたんだ」、「気にせず使っているインフラについて知ることができた」などの感想をいただきました。また、クイズの解答用紙は全て正解すると「NILIM」の文字が浮き上がる謎解きにしたり、参加者に国総研ステッカーの配布をしたりすることで、多くの方に【国総研】の名前を知っていただけるようにしました。



パネル展示およびクイズの様子



クイズを楽しむ親子



クイズ問題例・回答用紙



配布した国総研ステッカー

●防災カードゲーム「このつぎなにがおきるかな？」体験会

「関東大震災特別企画展」と「ぼうさいこくたい 2023」では、防災学習の体験会を実施し、国土省および国総研の防災教育の取り組みを紹介しました。

防災カードゲーム「このつぎなにがおきるかな？」は、これまでも多くのイベントで紹介をしておりますが、そのほとんどはゲーム現物や関係資料の配布に留まっていた。今回は、参



カードゲーム体験



防災ジェンガ

(発泡スチロールブロックを積み重ねブロックの高さをイメージ
最後にホンモノのコンクリートブロックを持って重さを体感)



加者とふれ合えるイベントの特性を活かし、カードゲームの遊び方を直接説明した上でのプレイや発泡スチロールブロックを用いてブロック塀の高さをイメージする防災ジェンガの体験など、防災学習の取り組みをより実践的に紹介しました。また、体験後には防災クイズを出題して学習成果のおさらいも行いました。

本体験には、NHK や Yahoo! Japan などの他の出展者も参加していただき、さまざまな情報提供や意見交換を行いました。これらの大きな広報媒体を持った機関との交流は、国総研の今後のPRにつながると考えられます。



出展者との情報交換(Yahoo! Japan)

● 斉藤国土交通大臣、松村防災担当大臣への取り組みの紹介

「関東大震災 100 年シンポジウム」には、斉藤鉄夫国土交通大臣が参加し、主催者として「迫り来る首都直下地震などの巨大地震に備え、皆様一人一人が今後のまちづくりについて考えていただくよい機会になるものと考えている」と述べられました。また、「関東大震災特別企画展」では、



斉藤大臣の視察

クイズ6

災害で家のトイレが流せなくなりました。
やっちはいけないのはどれでしょう。



- ①庭に穴をほってうめる
- ②災害用トイレでウンチやおシッコを固めてゴミとして捨てる
- ③正しく流すことができるお店や友達の家を探して、使わせてもらう

斉藤大臣の目にとまった防災クイズ
(正解は①です)

防災に関する技術などを視察されました。

「このつぎなにがおきるかな？」の体験ブースでは、参加者に出題していた防災クイズに関心を寄せていただきました。

また、「ぼうさいこくたい 2023」には、9月13日に就任されたばかりの松村祥史内閣府特命担当大臣(防災)が出席し、国総研を含む国交省の展示を見学されました。松村大臣からは、防災の取り組みを幅広い世代に知っていただく重要性についてのお言葉をいただきました。また、カードゲームをお持ち帰りいただき、お孫さんと遊んでくださるとのことでした。



松村大臣の視察

●今回の出展を通じて

今回参加したイベントは、主に地震防災をテーマとしたものでしたが、国総研の幅広い分野、取り組みのPRをすることができました。

それぞれのイベント出展は、以下の職員で対応しました。

「関東大震災100年シンポジウム」

企画部企画課 田中主任研究官、福岡研究員

「関東大震災特別企画展」

企画部企画課 三尾研究員、福岡研究員、須藤企画係員

河川研究部 吉田水防災システム研究官、大規模河川構造物研究室 鍛冶研究官

土砂災害研究部砂防研究室 山越室長、西脇研究官

道路構造物研究部道路地震防災研究室 上仙室長、長屋主任研究官、

乗川研究官、徳武交流研究員

「ぼうさいこくたい 2023」

企画部企画課 田中主任研究官、三尾研究員、福岡研究員、須藤企画係員

管理調整部企画調整課 長尾課長、森山企画係長

河川研究部水害研究室 新貝研究官

土砂災害研究部砂防研究室 西脇研究官

道路構造物研究部道路地震防災研究室 長屋主任研究官、乗川研究官

【参考】

● 「関東大震災 100 年シンポジウム」、「関東大震災特別企画展」

「関東大震災 100 年シンポジウム」は、関東大震災で何が起こったのかを振り返るとともに、切迫する首都直下地震等の巨大地震に対して、行政、民間企業、市民等が連携した今後のまちづくりやインフラ整備をいかにしていくべきかを考えるイベントとして開催されました。また、「関東大震災特別企画展」は、関東大震災の歴史や最新の防災技術を学べるというコンセプトで開催されました。



「関東大震災 100 年シンポジウム」
「関東大震災特別企画展」チラシ

企画展では、子どもから大人まで楽しめるよう“見て・触れて・感じる”をテーマに(一社)日本建設業連合会、(一社)全国建設業協会、NHK、Yahoo!など18団体が出展し、3日間で3,700人超の来場者(26日(土):1,284人、27日(日):1,552人、28日(月):903人)がありました。

● 「ぼうさいこくたい 2023」

「ぼうさいこくたい」は防災に関する取組・知見を発信・共有する日本最大級のイベントで、2016年より開催されています。今年も、関東大震災を意識し「次の100年への備え ～過去に学び、次世代へつなぐ～」をテーマとして関東地震の震源地である神奈川県(横浜国立大学)で開催され、2日間で約1万6,000人が来場しました。

国交省は、本省防災課、関東地整(防災室)、京浜河川事務所、東北地整(震災伝承ネットワーク協議会)、国総研が共同で屋外展示を行いました。国総研以外の展示では、災害対策車両の展示やVRによる地震体験、立体映像による自然災害体験などを行いました。国交省ブースには、のべで約2,700名の幅広い年代の方々が足を止めてくださいました。

(国総研の過去の出展の様子はこちら

<http://intra/sec/jinji2/kouho/pdf/shokuin-kokusono.226.pdf>
<http://intra/sec/jinji2/kouho/pdf/shokuin-kokusono.251.pdf>
<http://intra/sec/jinji2/kouho/pdf/shokuin-kokusono.263.pdf>



「ぼうさいこくたい」チラシ